

# シナプス

第218号



大東中央幼稚園園長室だより  
平成26年12月15日発行

☆園長コラム ☆キンダーカウンセラーコラム

☆担任の保育日誌から ☆身体測定・万歩計測・出席率

大東中央  
幼稚園

## 学校とは、幼稚園・小学校…

昭和59年に総合児童教育研究会を創設・会長に就任され、以降30年余の間に会員園216園・3万人を超える所属園児数の研究会に発展させてこられましたパドマ幼稚園学園長 秋田 光茂先生が、9月に享年85歳で逝去されました。ここに改めてご冥福をお祈り致します。

秋田先生には、我が園の児童教育に大きな影響を与えていただき、今更ながら、平成元年に仲間に加入させていただきました我が園の総合児童教育を思わざるを得ません。

昭和63年4月に園長職を拝命してすぐに取りかかったのが、本園児童教育内容の見直し。まずは、あちこちの幼稚園の教育内容の見学と研究を始めましたが、どの幼稚園もいわゆる“自由のびのび保育”を謳い“子どもは遊びの中で成長する”を前面に出している“保育”に取り組んでおられるところばかりでした。

我が園が総合児童研修に加盟させていただいたて2・3年後の自身の研修活動で、大阪府私立幼稚園連盟の研究指定園の一当時の教育研究委員長の幼稚園=公開保育に参加した時も、続々と登園してくる園児たちが、持ってきた荷物を置くなり、自分のお気に入りの遊び場へ直行し喜々として遊んでいる光景は、我が園と大きな違いは見られませんでした。ところが、そのあの光景に、私の頭の中には？・？・？が飛び交うばかり。殆どの園児たちは延々と、遊びの中身を変えるでもなく、ほぼ同じ遊び場で、ほぼ同じ仲良たちと、ほぼ同じような遊びに興じているばかりで、先生たちも自由なジャージー姿（私服？）で、時折園児たちに関わっておられる程度。一体いつになつたら教室に入って出欠を取って…となるのか？じりじりと待ち遠しく感じてくるようになったお昼前になってようやく、はつ

きりした合図の無いまま（これは不思議というよりは見事でしたが）に、園児たちが保育室に集まり（なかなかみんなが揃いませんが）だします。教室ではなく保育室です。どうして保育室なのかは、部屋の中身で納得出来ます。畳を敷いたままごとコーナー・折り紙を置いた折り紙コーナー・画用紙を置いたお絵描きコーナー・水槽を置いた観察コーナー等々、部屋の隅っこには机・椅子が積み上げてはいますが、並べるスペースはありません。幼稚園全体が、遊びのスペースになっているんです。失礼ながら、“小ープロブレム”的元凶の一つが、ここに潜んでいるような気がしないではありません。

ちなみに、学校教育法第1条には“学校とは、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学校…”と謳われています。

昭和63年の初頭にいただいたパドマ幼稚園からの公開保育のDM案内文には、時系列に活動内容が示され“歓迎音楽会”的項目もありました。本当のことを言えば、あまり大きな期待感も無いままに参加させていただいたのですが、朝の体育ローテーションに始まり、日課活動・課題活動と続く園児たちの活動を参観させていただくうちに“これこそ学校だ・これこそ児童教育だ”と思いました。その思いをもっと強くしてくれたのが“歓迎音楽会”です。合唱と合奏の発表でしたが、その出来映えもすばらしかったですが、出来映えよりもむしろ、園児たちの入退場時の整然としてキラキラ輝く一人一人の表情と発表中の園児たちの集中力に心を奪われました。その後の秋田先生のご講演で「決して教え込んではいません。日々の子どもたちへの活動の提供は、全てが遊び感覚のものであり、子どもたちは、教えようとすると拒否してしまいます。⇒次ページへ続く

子どもたちの集中力は、日々の少しずつ少しずつの積み重ねが育んでくれるもの・子どもたちと先生方の信頼感情が育んでくれるものであり、先生を含めた子どもたち集団が、共感共鳴出来る活動が育んでくれます。」と聞かされた言葉が、未だに強く心に残っています。

我が大東中央幼稚園が、総幼研教育に取り組み始めて26年目を迎えています。

秋田先生が提唱された『知・情・体三位一体』の幼児教育を以て、我が園の『明るく・優しく・逞しく』成長する幼児たちへの教育を益々深化

させるべく、決して教え込まない体育ローテーション・日課活動・課題活動・給食中心の昼食+自由遊び等々、子どもたちが楽しめる・喜べる・達成感を味わってくれる・次の活動への挑戦意欲を持ってくれるような少しずつ少しずつの積み重ねの活動によって、園児たち同士は勿論、先生と園児たちの共感共鳴出来る活動によって互いの信頼感を強く深くしながら、ますます園児たちの集中力を高めて園児たち一人一人が、常にキラキラ輝く表情の持ち主になってくれる事を願っています。

辻本 博人